

M16C ファミリ

R20AN0073JJ0101

Rev.1.01

2011.08.30

組み込み用 TCP/IP M3S-T4-Tiny: 導入ガイド

要旨

本資料は、M3S-T4-Tiny for the M16C Family V.1.04 Release00(以下、T4 と略します)を導入し、使用するために必要な情報をまとめています。

T4 は、ルネサスマイコンで動作する組み込み用 TCP/IP プロトコルスタックです。T4 はライブラリ形式で提供され、ユーザプログラムに組み込むことで簡単に TCP/IP 機能を付加することが出来ます。

動作確認デバイス

M16C ファミリ

目次

1. 製品構成	2
2. ライブラリ仕様	2
3. 対応マイコン及びライブラリ名称	3
4. 開発環境	3
5. T4 Ethernetサンプルアプリケーション ROM / RAM / スタックサイズ	4
6. バージョン情報	5
7. 注意事項	5
8. ライブラリ更新履歴	6

1. 製品構成

本製品は、以下のものから構成されています。

M3S-T4-Tiny for the M16C Family V.1.04 Release00

M3S-T4-Tiny for the M16C Family V.1.04 Release00 導入ガイド (本書: r20an0073jj0101_m16c_t4.pdf)

本製品の型名 : ROM3060PT0020RRC

本製品は、以下の表 1 のファイルが含まれます。

表 1 T4 の製品構成

	内容
インストーラ(setup.exe)	Windows 用のインストーラです。 表示される使用許諾契約書に同意いただいた場合、 以下フォルダにデータがコピーされます。 【無償版】 C:\Renesas\an_r20an0073jj_m16c_t4_v104r00 【有償版】 C:\Renesas\an_r20an0073jj_m16c_t4_v104r00p ※無償版と有償版とでデータの差はありません。
T4 ライブラリ(lib)	
T4_Library_m16c_ether.lib	M16C 用ライブラリファイル ver 1.04(Ethernet 対応)
r_t4_itcpip.h	T4 ヘッダファイル
サンプルドライバ(drv)	
eth_drv.c eth_drv.h	RTL8019AS 用 Ethernet ドライバ
サンプルプログラム(sample)	
Ether.hws	HEW プロジェクトファイル
ドキュメント(doc)	
r20uw0031jj0103_t4tiny.pdf r20uw0032jj0102_t4tiny.pdf r20an0073jj0101_m16c_t4.pdf	ユーザーズマニュアル Ethernet ドライバ仕様書 導入ガイド

2. ライブラリ仕様

ライブラリ仕様の詳細はインストーラに格納されているユーザーズマニュアルをご参照下さい。インストーラはルネサスエレクトロニクスのウェブサイトからダウンロード可能です。

3. 対応マイコン及びライブラリ名称

M16C ファミリ用の TCP/IP ライブラリです。

コンパイラデフォルトのコンパイルオプションにてライブラリを生成しています。

4. 開発環境

[開発ホスト]

Windows XP ・ Windows NT 4.0 ・ Windows 2000 ・ Windows Me ・ Windows 98 ・ Windows 95

弊社の開発環境を以下に示します。

ユーザアプリケーション開発時は以下のバージョンより新しいものをご使用下さい。

[ソフトウェアツール]

統合開発環境

High Performance Embedded Workshop Version 4.09.00.007

C コンパイラ

M16C Series,R8C Family Compiler V.6.00 Release 00

[デバッグツール]

エミュレータデバッガ

E8a エミュレータ

エミュレータソフトウェア

E8a エミュレータソフトウェア V.1.05 Release 00

[ボード]

HSB16C62-100S (北斗電子)

M16C ETHER BOARD EN16C100 (北斗電子)

5. T4 Ethernetサンプルアプリケーション ROM / RAM / スタックサイズ

サンプルアプリケーションは、以下の設定で作成されています。

アプリケーション用の受信バッファを必要数用意

→受信バッファ 1 個あたり RAM1500byte

受信ウィンドウ 1460byte の端点を端点数分設定

→アプリケーションで確保する T4 用ワーク領域のサイズに影響

受信バッファを 1 個設定

→エントリ 1 個あたり RAM 566byte

[必要メモリ①：アプリケーションの ROM/RAM サイズ]

ROM : 448 byte

RAM : 7066byte

[必要メモリ②：T4 ライブラリの ROM/RAM サイズ]

ROM : 24223 byte

RAM : 102 byte

[必要メモリ③：Ethernet ドライバの ROM/RAM サイズ]

ROM : 3106 byte

RAM : 693 byte

[スタックサイズ]

API 名	スタックサイズ (サンプルドライバ関数スタック込み)	T4 が呼び出すドライバ関数
tcp_acp_cep	38	api_slp
tcp_con_cep	38	api_slp
tcp_rcv_dat	51	api_slp
tcp_snd_dat	36	api_slp
tcp_sht_cep	36	api_slp
tcp_cls_cep	38	api_slp
tcp_can_cep	26	api_slp
udp_rcv_dat	42	api_slp
udp_snd_dat	30	api_slp
udp_can_cep	30	dis_int ena_int
tcpudp_get_ramsize	30	
tcpudp_open	35	tcpudp_act_cyc
_process_tcpip	217	api_wup api_slp rcv_buff_release lan_write lan_read lan_reset

本スタックサイズは、T4 に付属のサンプルプログラムのものです。

ドライバ層やコールバックルーチンの実装により、スタックサイズは変化しますので、ユーザは CallWalker 等のスタック算出ツールを使用し、スタックサイズの確認を行ってください。

6. バージョン情報

T4 では、`_T4_Version` 変数に文字列でバージョン情報を格納しています。以下の `extern` 宣言によりこの変数にアクセスすることが出来ます。また、本製品のライブラリに格納されているデータは以下の通りです。

```
extern const char _T4_Version[];
```

```
"M3S-T4-Tiny version 1.04 for M16C.(Aug 30 2011, 16:50:15)"
```

7. 注意事項

`tcp_rcv_dat()`及び、`tcp_snd_dat()`の第三引数「INT len」には 15bit 以内のサイズを指定してください。
`tcp_rcv_dat()`及び、`tcp_snd_dat()`の第四引数「TMO tmout」に正の値を指定する場合、15bit 以内のサイズを指定してください。

サンプルプログラムの MAC アドレスは `config_tcpudp.c` の `_myethaddr` 変数に格納されています。
`_myethaddr` 変数の初期値は必要に応じてシステムに合わせて変更してください。

8. ライブラリ更新履歴

Ver	変更点	リリース日時
1.04	以下機能追加 Ethernet ドライバ関数「report_error」を追加しました。 UDP チェックサムの処理切り替え設定用変数、「_udp_zerochecksum」を追加しました。	2011/08/30
1.03	以下バグ修正 (不具合現象) RI600/4 と併用した場合、ユーザ定義関数 api_wup() がどの通信端点による呼び出しかが不明なため、起床するタスク ID も不明になる。 (対策) api_wup()の引数で、処理が終了した通信端点 ID を指定するよう変更。	2011/01/25
1.02	以下バグ修正 (不具合現象) RI600/4 と併用した場合、r_t4_itcpip.h の型定義と itron.h の型定義とが衝突する (対策) r_t4_itcpip.h を修正。	内部バージョン
1.01	以下バグ修正 (不具合現象) T4 が tcp_snd_dat で通信相手に受信ウィンドウ一杯に送信した後、相手が受信失敗した等で、受信ウィンドウが十分な状態の ACK 済みの ACK を送信してきた場合、送信側がゼロウィンドウプローブ、受信側が ACK 済みの ACK 送信を繰り返し通信不可になる場合がある (対策) T4 が「通信相手はゼロウィンドウ」と判定し、通信相手が通知してきたウィンドウサイズがゼロでない場合、ゼロウィンドウプローブではなくデータ再送する	2010/11/10
1.00	新規リリース	2010/09/01

ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com/>

お問合せ先

<http://japan.renesas.com/inquiry>

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.01	2011.08.30	—	T4 ライブラリ Ver1.04 に合わせてリリース
1.00	2011.02.17	—	初版発行

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本文を参照してください。なお、本マニュアルの本文と異なる記載がある場合は、本文の記載が優先するものとします。

1. 未使用端子の処理

【注意】未使用端子は、本文の【未使用端子の処理】に従って処理してください。

CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。

2. 電源投入時の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。

同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. リザーブアドレスのアクセス禁止

【注意】リザーブアドレスのアクセスを禁止します。

アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレスがあります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

4. クロックについて

【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。

プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

5. 製品間の相違について

【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、事前に問題ないことをご確認下さい。

同じグループのマイコンでも型名が違くと、内部メモリ、レイアウトパターンの相違などにより、特性が異なる場合があります。型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所・電話番号は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス販売株式会社 〒100-0004 千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)

(03)5201-5307

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。
総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/inquiry>